

諸軍勢、大將ノ前後ニ馬ヲ早メテ、自鳥ノ前ヲ打過ケル時、見物シケル女童部、名和伯耆守長年ガ、引サガリテ打ケルヲ見テ、此比天下ニ結城伯耆、楠千種頭中將、三木一草トハレテ、飽マデ朝恩ニ誇タル人々ナリシガ、三人ハ討死シテ、伯耆守一人殘タル事ヨト申ケルヲ、○下

〔折たく柴の記中〕七月〇寶永六三日、前代〇家繼德川御誕生の事おはします、すなはち世良田をもて稱しまるらせらる、これは俗忌により、御稱號を改められし所なるべし、俗忌に、丑の年の人は、他姓を稱するの事あり

〔基熙公記〕寶永六年七月九日、若君〇家繼德川誕生、世良田ナベ松ト名付、  
〔有德院殿御實紀附錄四〕此安左衛門〇山川忠義といへるは、性質健固なる人にて、略中市人等恐る、事大方ならず、略中 山川白酒といふを商ふ者も、この人の苗字を呼事を恐れ、招牌にも山川の字をば削りさりしこなり、

### 附稱號

稱號ハ、苗字ノ類ナリ、中古以降、居住ノ地、又ハ所領ノ地等ヲ以テ、姓氏ノ外ニ之ヲ稱セシニ  
起リシコト、猶ホ苗字ニ異ナラズ、而シテ稱號ハ、特ニ其人ヲ尊敬スルヨリ起リシモノナレバ、親王家措紳家等ニ限レルガ如シ、

〔書言字考節用集四倫〕稱號シヨウガウ曰ニ稱號シヨウガウ、名號メイガウ

〔鹽尻〕和俗家の稱號を名字と呼、是を近世名と字との事と心得、あたらぬ事として、苗字などと書は、却て誤れるにや、是は中頃、武家出身せし者、其郷里本貫の名田の字を呼しより名字と云、天野北條等人の名と字にてはなし、たゞへば居所を以て呼も同じけれど、是は其人を尊んでの事なり、一條殿、九條殿、鎌倉殿等なり、公家衆の稱號、花山院、徳大寺など申も、花山院氏、徳大寺氏と云事、更になし、近世名字に氏を添て、武田氏、長尾氏など、云も、古書にはなき事なり、この頃は又これを姓と書く、林家の學士を姓は林など記せり、いざや姓氏は、